

乳幼児健康診査事後管理の連けいに関する研究

その4 昭和56年パイロット町における事後管理の実態

伊藤 玲子* 石塚 志津子*

秋田県福祉保健部公衆衛生課

秋田大学医学部小児科教室

角館町, 大森町, 神岡町

I はじめに

昨年, 本研究事業開始に当り, 角館町, 大森町, 神岡町の3町をパイロット地区とし, 乳幼児健診とその後の実態を調査することとした。その2年目の状況について報告する。

なお, 3町の特徴や, 差異については, 初年度に報告¹⁾のとおりで, また, 56年の主なる母子人口動態, 乳幼児健診計画, 実施状況等も昨年と同様で, かつ, 3町いずれも大差がない。

II 調査方法

健診は, 3町の56年乳幼児健診計画に基づいて行ったが, 年間回数, 従事者状況等は, 昨年とほぼ同様である。

健診と事後管理の連けいを目的に, 乳幼児健診の事後の実態として, (1)乳児, 1歳6か月児, 3歳児健診について, 56年の現状と, 昨年に続き54, 55年のその後の状況, (2)チェック児の事後管理の関連機関ならびにその追跡方法について調査した。

III 調査結果

A. 56年の健診状況

昨年と同様, 3町は, それぞれ異なる医師が担当し, 健診のニュアンスも差異はあるが, まとめの上からは, あまり大きい問題はないと思われる。

なお, 問題別の実態把握の便を考え, 極めて無理であるが, 昨年と同様に, 先天性及びその疑, 精神・行動発達に関するもの, 感染症, 皮膚疾患, 発育・栄養その他一般疾患の5分類とした。

1.乳児: 受診579名(受診率92.8%)のうち, 健診時点のチェック児は185名(32.0%)(疾病数203件)である。この児の56年12月までの間に問題解決64.5%(医療機関で治癒確認, その後の健診で問題なし), 現在

治療又は経過観察中13.3%(主として先天性, 発育, 発達など), 保健婦経過観察中12.3%(発育, 発達, その他)である。

2.1歳6か月児: 受診数399名(受診率93.2%)のうち, チェック児80名(20.1%)(疾病数88件)で, 12月の時点での問題解決25.0%, 治療又は経過観察中21.6%(先天性, 発達, その他の疾病など), 保健婦経過観察中23.9%(発達, ことば, その他)である。

3.3歳児: 受診数485名(受診率94.5%)のうち, チェック児104名(21.4%)(疾病数112件)で, 12月の時点の問題解決25.9%, 治療又は経過観察中17.9%(先天性, 精神行動発達, その他の疾病)で, 保健婦経過観察中24.1%(ことば, 行動発達, 発育, 環境など)となった。

全体として, 3町の56年1月～12月までの合計受診数1,463名, 受診率93.5%である。その健診時点のチェック児369名(25.2%), 疾病数403件となった。

疾患の種類は, 先天異常およびその疑の者79件(19.6%), 精神・行動発達に関する者121件(30.0%), 感染症47件(11.7%), 皮膚疾患66件(16.4%), 発育・栄養, その他の疾患90件(22.3%)である。

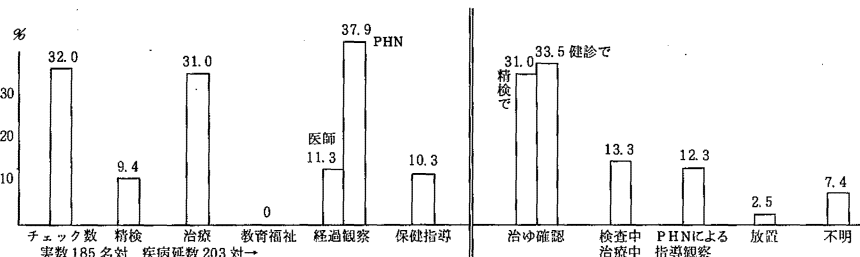
その健診時点の指示は, 精密検診9.9%, 治療25.8%, ことばの指導1.2%, 経過観察48.4%, 保健指導14.6%である。この児達の56年12月の状況では, 医療機関で治癒確認27.5%, 次回, その他の健診で治癒確認17.6%であり, 現在治療又は検査中16.4%, 保健婦による指導観察中18.1%, 放置13.9%, 不明6.5%となった。(図1.)

健診時点での指示(精密検診, 治療, 教育, 福祉等)に対し, 実施された者は, 乳児で64.6%, 1歳6か月児81.5%, 3歳児82.5%で, 他は次の健診で問題なし確認, および, 保健婦による経過観察でカバーされており, 乳児より1歳6か月児, 3歳児と保健婦担当の率が多くなり, 3町いずれも同様の傾向である。

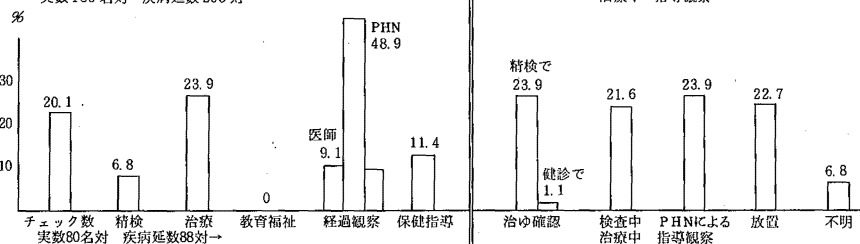
状況不明は26件(乳児15名, 1歳6か月児6名, 3歳

* 秋田県衛生科学研究所

乳 児	町名	受診数	%
	角館町	338	91.3
	大森町	122	90.4
	神岡町	119	100.0
	計	579	92.8



1 歳 6 か 月 児	町名	受診数	%
	角館町	192	89.7
	大森町	126	94.7
	神岡町	81	100.0
	計	399	93.7



3 歳 児	町名	受診数	%
	角館町	287	91.1
	大森町	113	100.0
	神岡町	85	100.0
	計	485	94.5

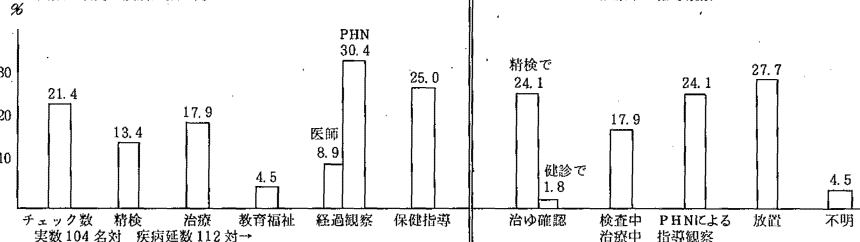


図1. 3パイロット町の健診時点とその後の状況 (昭56)

児5名)であるが、角館町の難聴児を除いては、将来に問題を残すものはないように思われる。

4.歯科: 1歳6か月児では、3町あわせて受診数381名(受診率89.0%)のうち、むし歯保有者65名(17.1%)、むし歯以外の歯科疾患19名(4.9%) (不正咬合18名、その他1名)であり、3歳児では471名(91.8%)に対し、むし歯保有者364名(77.3%)、むし歯以外の歯科疾患46名(9.8%) (不正咬合32名、その他14名)である。

B. 54年、55年のその後の状況

3町の54、55年(2か年)の乳児、1歳6か月児、3歳児健診の受診総数2,685名(受診率90.4%)に対し、初回健診時点のチェック児は、乳児243名(21.3%)、1歳6か月児125名(17.5%)、3歳児138名(16.6%)計506名(18.8%)、疾病数540件である。(歯科疾患除く)

この児の、55年12月時点で、治療又は経過観察中は、あわせて103名(20.4%)、保健婦担当114名(22.5%)、その他未解決(放置、不明)をあわせて293名(10.9%)となった。そして、さらに1年後(56年12月)に追跡してみると、乳児健診から継続しているもの28名、1歳6

か月児健診からのもの23名、3歳児健診から19名、計70名で、初回受診時チェック児の13.8%、初年受診数の2.6%となる。(図2)

70名の状況は、先天異常25名(35.7%)、精神行動発達に関連29名(41.4%)、発育、その他の疾患16名(22.9%)であるが、その中で心臓奇型12名(17.1%)が目立つ。(図3)

C. 事後管理の追跡の方法と関係機関

56年チェック児369名、および、54、55年より続いている70名の、56年12月時点の追跡方法をみると、訪問が22.1%、健診および保健相談の場を活用53.3%、電話13.7%等が主である。後者の70名のみでみると、訪問が30%、幼稚園、保育所等との連携もみられる。(表1)

また、関係機関をみると、秋田大学医学部附属病院4.4%、公的病院31.4%、一般診療所14.5%、ことばの教室5.5%、児童相談所、肢体不自由児施設2.1%で、他の42.1%は、放置群も含めて保健婦担当となっている。後者の70名のみでみると、秋田大学医学部附属病院(11.4%)、児童相談所、肢体不自由児施設(5.7%)が前者に比し、やや目立つが保健婦担当率はほぼ同じである。(表2)

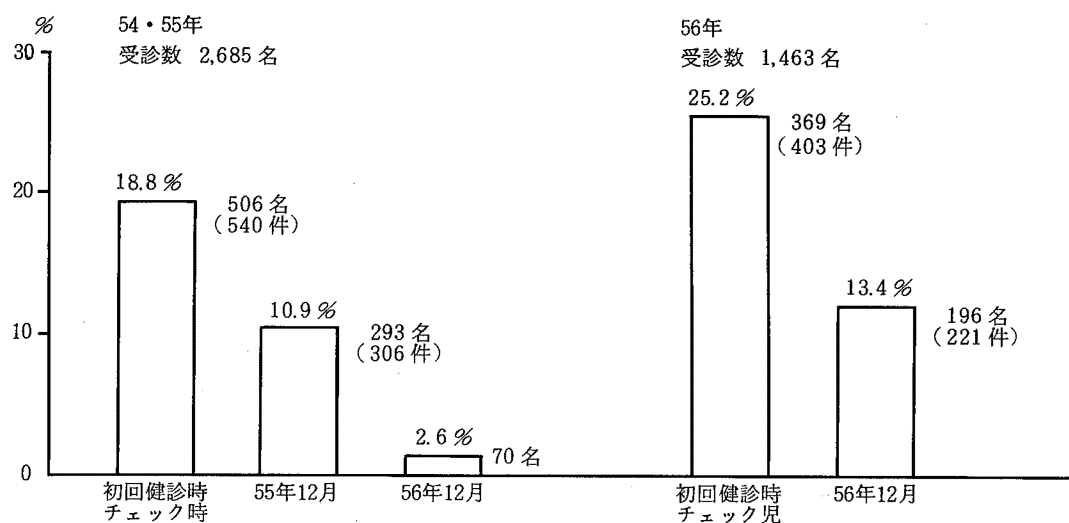


図2. 3パイロット町継続管理の経過

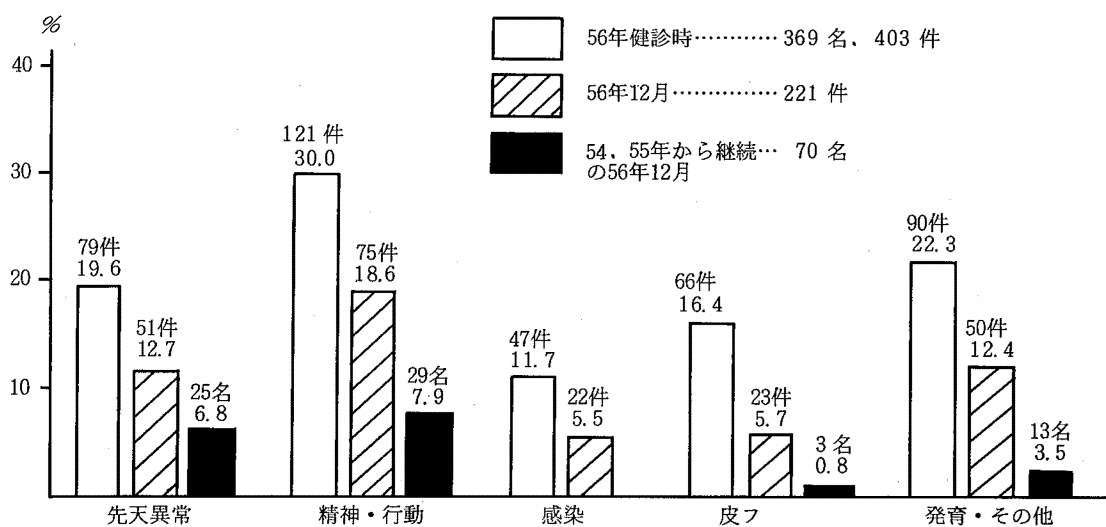


図3. 追跡児の疾病の種類

表1. 追跡の方法

3パイロット町									
事 項	例 数	訪 問	健 診	保健相談	電 話	幼稚園 保育所	家族から	転 出	不 明
54, 55 年 から	70	21 (30.0)	22 (31.4)	2 (2.9)	11 (15.7)	11 (15.7)	3 (4.3)		
56年(1 ～12月)	369	76 (20.6)	178 (48.2)	32 (8.7)	49 (13.3)			4 (1.1)	30 (8.1)
合 計	439	97 (22.1)	200 (45.6)	34 (7.7)	60 (13.7)	11 (2.5)	3 (0.7)	4 (0.9)	30 (6.8)

表 2. 継続管理児の関連機関

(56年チェック児)
(54～56, 継続児)

事 項	例 数	秋田大学	公的病院	一般診療所	ことば教室	児相・肢施	保 健 婦
角 館 町	131	8	49	10	13	3	48
大 森 町	106		47	33			26
神 岡 町	78	1	11	9	1	1	55
計	※ 315	9 (2.9)	107 (34.0)	52 (16.5)	14 (4.4)	4 (1.3)	129 (41.0)
54→55→56追跡児	70	8 (11.4)	14 (20.0)	4 (5.7)	7 (10.0)	4 (5.7)	33 (47.3)
合 計	385	17 (4.4)	121 (31.4)	56 (14.5)	21 (5.5)	8 (2.1)	162 (42.1)

※ 369名より 不明を除く

IV 考 察

乳幼児健診事後管理の連けいの実態を調査する目的で、3パイロット町において、昨年に続き、乳幼児健診の事後の状況を把握した。

3町の年間健診回数は、昨年と同様で、乳児の場合、角館町が24回、大森町6回、神岡町8回で、児に対する受診機会は3～4回である。幼児は1歳6か月児、3歳児いづれも健診回数は7～8回又は2～3回で、児の受診機会は1回となっており、受診率は89.7%～100%である。

3町の乳幼児健診状況は、3町の間で、実施方法、結果に、また児の年齢により、多少バラツキはあるものの、56年は3町あわせて1,463名(平均受診率93.5%)の受診児のうち、369名(25.2%)がチェックされ、12月の時点で残っている者196名で、初回受診者の13.4%である。

また、54、55年からの場合の追跡状況をみると、初回受診合計2,685名のうち(受診率90.4%)、チェック児506名(18.8%)で、昨年末の継続が293名(10.9%)(放置、不明含)、さらに1年後の56年12月で70名となり、初回受診者の2.6%である。

これらの児の、主として保健婦がかかわっている者は、年齢が進むにつれ多く、その内容は、主にことば、精神行動発達、発育、家庭環境等に問題を持つ者で、全体の約50%に達する。健診時点で放置群でも、その後の保健婦とのかかわりや期待は決して少くはない。

保健婦の追跡の方法は、3町で差異があり、児の多い角館町は、次の健診の活用が、他の2町は訪問、保健婦による健康相談の場の活用が多い。

さきに、アンケート調査においてみられた保健婦の事後管理へのかかわり方は、把握動機、追跡の方法、関係機関との連けい等、3パイロット町の実際においては同様の傾向がみられた。

そして、保健婦は、保健指導の技術者として、限られたスタッフと予算の中で、よりよい地域保健サービスへの努力が期待されながらも、関係機関、殊に医師、その他の専門家との直接の関連は薄く、母と児を介して、間接的連けいの中で努力している様子が伺われる。

本県は、市町村人口数²⁾からみると、人口1万人以下が52.2%、2万人以下を加えると78.2%で、中山氏ら³⁾は、こうした小さい町村の乳幼児健診の特徴として、農業地域、受診率よし、病院、小児科が少い(ない)、精密検査施設が町村内にない、保健婦の実態把握がよい、などをあげ、健診実施上、保健婦中心の健診スクリーニング、小児専門保健婦の設置、隣接町村と連けいの共同チームの編成などを提案しているが、本県の乳幼児健診ならびに事後管理として今後の大事な検討課題と思われる。

V ま と め

乳幼児健診事後管理の連けいに関し、昨年に続き、3パイロット町での健診ならびに追跡状況を調査し、次のことがみられた。

- 1) 乳幼児健診の初回受診のチェック児は18% (54、55年)～25.2% (56年)で、1年後にその50%が未解決で残っており、さらに1年後はチェック児の13.8%、初診受診児の2.6% (54、55年)が残る結果となった。
- 2) チェック児の40～50%が、何らかの形で保健婦と

のかかわりを持っており、特に、ことば、精神行動発達、発育、栄養等が保健婦にゆだねられている。

- 3) 保健婦の追跡は、訪問22.1%, 健診、保健相談の場活用53.3%, 電話利用13.7%が主なものである。
- 4) 関係機関は、秋田大学医学部附属病院 4.4%, 公的医療機関31.4%, 一般診療所14.5%, 福祉・教育関係 7.6%であるが、事後管理として保健婦との直接の連けいは少い。

本研究の一部は、昭和56年度厚生省心身障害研究費によるものである。

- 1) 伊藤玲子たち：乳幼児健康診査事後管理の連けいに関する研究、その2., パイロット町における事後管理の実態、秋田県衛生科学研究所報, No25, 121~127, (1981)
- 2) 秋田県福祉保健部：秋田県衛生統計年鑑, 昭和55, 下巻, (1981)
- 3) 中山健太郎たち：乳幼児健康診査のシステム化に関する研究、厚生省「母子保健・母子医療システムに関する研究」研究班, 189~200 (1977)